

2022年10月～12月活動報告

天塩町地域おこし協力隊 野口 裕康

活動の方針と見通し

協力隊に着任してから1年が経過し、コロナ禍で外部と連携しての活動が制限されていた時期に比べて自治体の枠を越えて協力して行うプロジェクトも動き始めているため、今後は活動分野をやや絞りつつそれらにより集中していきたいと考えている。

活動記録

1 情報発信のデジタルサイネージシステムの制作

イベント時や町内の施設で情報を発信することを想定したデジタルサイネージのシステムを制作した。製品化されたデジタルサイネージの利用は一般に高価であり、内容の修正や機能の追加を行う際にも自由度が低くなることから、昨年開催された天塩國狂言公演時に制作したチケットのオンライン予約システムと同様にWebアプリケーションとして制作を行った。

最初に利用するイベントが神戸市での地域PRに関わる催しであったため、画面の一部にリアルタイムで天塩町の天気・気温と神戸市での気温を表示させ気候が大きく異なることを示し、通行人の注意を引くことを目指した。

また、今後の応用を見据え、一定時間ごとに表示を英語に切り替えるような多言語対応機能も取り入れた。イベント会場の場所に合わせて天気などの情報を変えることができ、神戸でのイベント後に島根県松江市で使用した際には松江の情報を取得して表示した。



▲実際のデジタルサイネージ画面（コンテンツ内画像等は外部から提供）



▲多言語対応（英語版）



▲松江市の情報へ切り替え

2 ふるさとPRフェア（神戸市） 出展

天塩町のPRを通して観光やふるさと納税を促進するイベントが兵庫県神戸市で開催され、運営および各種コンテンツの制作を行った。期間中には、天塩高校第2学年の生徒が修学旅行の活動の一環として会場を訪れ、ノベルティ配布や天塩町と生中継で夕暮れ時の風景紹介を行った。



▲ふるさと納税に関するアンケート調査



▲高校生による生中継

3 イベント等で配布するポストカードの制作

神戸市でのイベントでは、アンケート回答者に対しノベルティの1つとしてポストカードが配布された。従来からあるデザインのものに加え、町や住民から提供された写真を利用した新デザインのカードを3種類制作した。



▲新デザインとして制作したポストカードの一例

4 天塩町の風景を紹介する30秒ショート動画の制作

イベントやWebサイトでの利用を想定した天塩町のありのままの風景を紹介する短い映像を制作した。神戸でのイベント時のデジタルサイネージ表示用コンテンツの1つとして制作したため、以前に撮ってあった映像をつなぎ合わせたものとした。動画は協力隊公式YouTubeチャンネルにもアップロードし、後日協力隊公式インスタグラムにリール動画として英語版を公開した。



▲YouTube 動画（日本語）



▲Instagram動画（英語）

5 NHKクイズ番組「179Q」提供映像制作

道内の市町村のユニークな物事や取り組みをクイズ形式で紹介する番組「179Q」（昨年12月9日放送）内で使用された、天塩町に関するクイズの出題・解答の映像を制作した。天塩町のクイズは、天塩高校と筑波大学による高大連携教育の取り組み中に高校生が口にした「天塩にも、都会みたいな〇〇があったらなあ。」というセリフを取り上げ、町の新たな名物を目指した特産品開発をテーマにした。天塩高校の生徒と先生・町内飲食店の協力のもと、実話をもとにした再現映像として制作した。



▲撮影時の様子



▲クイズ映像（オリジナル版）



6 翻訳アプリ使用セミナーのサポート

天塩町観光協会が主催したインバウンド対応の研修会において、スマートフォンの翻訳アプリ「VoiceTra（ボイストラ）」を使って外国人とコミュニケーションをとることを目標としたセミナーが行われた。協力隊の三國隊員が英語で司会を行い、自身は日本語での解説および参加者がアプリを操作する際の補助を行った。



▲アプリ操作法の説明



翻訳アプリを使った外国人観光客とのコミュニケーション方法を学ぶ参加者

「天塩町観光協会（計マイトフォン（スマホ）用のコミュニケーション方法」を学んだ。

専兼会、主催のインバウンド多言語翻訳アプリ「VoiceTra（ボイストラ）」の研修会が、12月6日（土）天塩町観光協会3階大会議室（ラ）で開催された。参加者が、インバウンド（訪日外国人観光客）とコミュニケーションするための方法を学ぶことになった。

ボイストラは、総務省が所管する国立研究開発法人情報通信研究機構が開発したもので、無料でダウンロードできる。

翻訳可能な言語は31種類。そのうち日本語や英語をはじめ、中国語（簡体字と繁体字）、インドネシア語など20種類は、翻訳したい言語の音声入力ができ、フィリピン語やミャンマー語など18種類は翻訳後の音声出力ができる。音声での入出力が可能で、キーボードからの入力でも翻訳可能。

翻訳後の文章はスマホの画面で確認することができる。この日は、IT技術者の登録部門といわれる基本情報処理技術者、さらに高度な技術者を対象にした応用情報処理技術者の各国家資格を持つ野口裕康さん、イタリアや中国での勤務経験のある三國秀美さんの地域協力隊員2人が講師を務め、同協会員約10人が参加した。

参加者は、野口さんのサポートを受けながら、スマホにボイストラをインストールし、操作方法を確認した。また、カフェの店員やホテルスタッフの立場になり、インバウンド役の三國さんに一人ずつ対応。

「どんな種類のコーヒーがあるかや、1泊いくらで泊まれるか」など、英語で問いつける三國さんにボイストラを使って対応。スマホに日本語で話し掛ける英語に翻訳された回答を三國さんに聞かせてコミュニケーションを促している。終了後、参加者からはアプリを使うと通信量が多くなりすぎないか、「外国語の人、日本語のこのアプリを持っていない場合もあるのでは」などの質問が寄せられた。

▲留萌新聞 R4.12.06

7 高校前バス待合所リノベーションプロジェクトの進捗

天塩高校前のバス待合所を改装して、明るく居心地の良い空間を目指すリノベーションプロジェクトにおいて、町内事業者の協力により建物内側の壁・天井・床の改修の大部分が完了した。バス待合所を今後イベントや展示会場として活用するため、今年度内の完成を目標に照明やデジタル技術を用いた体験コンテンツを導入していく予定である。町によりバス待合所周辺で利用できる Wi-Fi が整備されたため、例えば「スマート待合所」のような機能を持たせることも可能となる。小規模ということもあり、システム開発を協力隊の業務として行うことでコストをかけずに実現させたいと考えている。



▲現在のバス待合所外観



▲現在のバス待合所内観

8 啓徳小学校学習サポート

啓徳小学校の放課後学習に参加し、これまでと同様に課外時間の学習補助や運動を通じたコミュニケーションを行った。10月から12月にかけては3回参加した。

9 高大連携シンポジウムでの発表

11月19日、全国から6高校が参加して筑波大学との高大連携教育の成果を発表するシンポジウムがオンラインで行われた。本年は新型コロナウイルス感染防止のため、天塩高校の生徒に代わり協力隊員らが発表を行った。天塩高校第2学年の生徒が参加した高大連携ワークショップにおける成果について、自身はふるさと納税の体験型返礼品に関するプレゼンテーションを担当した。



▲天塩高校の生徒がまとめたスライドについての発表

10 天塩かわまちづくり検討会での発表

天塩川の資源を生かした観光振興について話し合う会議に参加し、協力隊として今後実施したいと考えているアイデアを紹介した。自身はLEDライトとデジタル技術(IoT)を利用したインタラクティブなイルミネーション体験コンテンツについて発表を行った。



▲協力隊によるアイデア発表

11 ほっかいどうチャレンジピッチ in るもいでの発表

管内の地域課題解決や特性を生かした地域づくりに関する取組について対外的な発表を行い、連携を目指すイベント「ほっかいどうチャレンジピッチ in るもい」が11月18日に留萌市内で開催された。本イベントにプレゼンターとして参加し、SNS等で容易に情報が入手できる現在において人々に実際に地域を訪れてもらうための体験型観光コンテンツの造成をテーマとし、プレゼンテーションを行った。終了後、自治体を越えて地域活性化を目指すプロジェクトが複数立ち上がり、今年度中の天塩町内でのイベント開催に向け他地域と共同で計画している。

12 セミナー参加・その他の活動

(1) 天塩高校第1学年植樹体験フィールドワーク (10月27日 振老沼)

総合学習の授業として行われた振老沼周辺での植樹体験に参加し、記録写真の撮影等のサポートを行った。



▲フィールドワークの様子

(2) アラスカ・ホーマー市との交流に向けた打合せ

天塩町の姉妹友好都市であるアラスカ・ホーマー市の学校と交流授業の実現に向けて、町内の学校およびホーマー市側の担当者と連携して計画を進めている。

(3) 第9回留萌地域ツーリズム勉強会（12月5日 留萌市）

留萌管内地域の資源を活用した地域づくり及び交流人口の拡大方策を目的とする勉強会に参加し、アドベンチャートラベル事業の創出に向けた体験コンテンツ創出をテーマとして参加者と有識者の間で意見交換を行った。

(4) 第2回るもいアウトドア観光ネットワーク会議（12月6日 留萌市）

留萌管内でのアウトドア事業を推進する会合に参加し、地域のアウトドアアクティビティ関係者・先駆者と現状報告および今後の方針の確認を行った。



▲会議には留萌管内から約20名が参加した

(5) 天塩中学校ポスターコンペ（12月7日 天塩中学校）

中学生が制作した天塩町内の魅力を伝えるポスターについてのプレゼンテーションおよび優秀な作品を表彰するコンペティションが行われた。この授業には今後交流を行う予定になっているアラスカ・ホームー市の学生もオンラインで参加し、その際の中継やホームー市側との連絡のサポートを行った。

(6) 天塩高校「総合的な探究の時間」発表会（12月9日 天塩高等学校）

本年度の「総合的な探究の時間」授業で学んだ内容についてプレゼンテーションを行う発表会に参加した。当日は、第1学年は地域学習体験、第2学年は高大連携教育についての発表を行った。

(7) 北海道多文化多言語サポーター研修（12月26日 オンライン）

災害時等に地域に住む外国人をサポートするボランティア「北海道多文化共生多言語サポーター」向けの研修が開催され、道内各地域での現在の課題や解決策について情報交換を行った。